

あ と が き

2014年8月1日、航空研究センター（以下「センター」という。）が新設されると同時に、『エア・パワー研究』の創刊号を発刊した。ようやく、今日第2号を発刊するに至った。

ここに掲載した内容に関わる各種研究には、防衛研究所や国内外の研究機関との交流の他、英国ケンブリッジ大学ステファン・ハルパー（Stafan Halper）教授や米国戦略国際問題研究所のエドワード・ルトワック（Edward N. Luttwak）上級研究員、シカゴ大学政治学部のジョン・ミアシャイマー（John J. Mearsheimer）教授などの学識専門家を招いて行った意見交換を通じて得られた成果も反映している。

本誌は、航空自衛隊に対する理解と認識を高めることを狙いとした広報活動の一環として作成しているものであるが、併せて研究成果等を発表して、一層の研究の充実や発展を目指すことも含めている。すでに、創刊号を手にした海外機関の一部からは、センターとの交流や連携を要望する意見が寄せられている。本誌が、国内ばかりでなく、他国の軍や研究機関とのネットワークを構築する触媒としての機能を果たし始めているのは喜ばしいことである。

米国では、将来にわたって米国の優位性を維持するため、最先端技術を駆使した「第3の相殺戦略（Offset Strategy）」の検討が始まった。航空防衛は技術への依存度が特に高い。このため Offset Strategy については、今後とも注意を払っていく必要があるものと考え。また、新たな領域として宇宙におけるエア・パワーの活用、テロによる国際的な犯罪行為などへの対処の活用についても、この場を通じて議論できることを望んでいる。

センターは発足して間もないが、エア・パワーに関して研究する唯一の機関であり、国内外に航空自衛隊、エア・パワーに関する理解を深める責務を担っている。われわれは、本誌がより多くの人の目に触れ、関

心を引きつけ、厳しい批評を寄せられることを期待している。部隊、研究機関を問わず、多くの方々と議論を深めながら、課題に取り組んでいくことで、新たな地平が拓かれていくことを願っている。本誌がその一助となれば幸甚である。

『エア・パワー研究』編集委員会